

1.雨の降り方と土砂災害との関係

最近では、雨の降り方が変化すると実感できることが少なくありません。図.1はいわゆる豪雨といわれる1時間雨量50mm以上の雨が日本国内のアメダスで何回観測されたかを年ごとにまとめたグラフです。年ごとの変化はありますが、

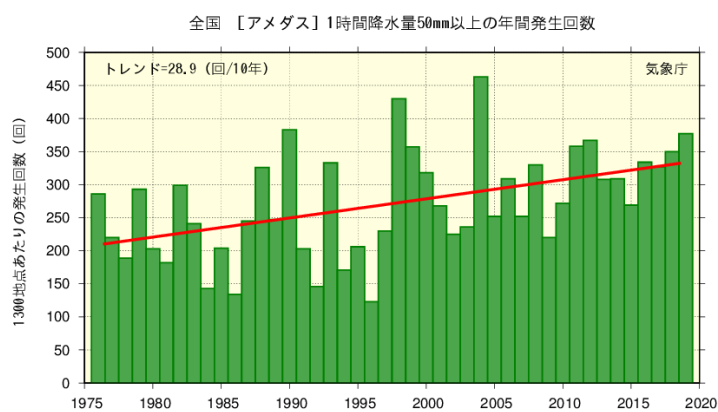


図.1 アメダス 50 mm/時間超降雨の年ごとの発生回数 (気象庁)

全体の傾向として、右肩上がりの傾向があることがわかります。

土砂災害は、がけ崩れ、土石流、地すべりなどを指します。人家の近くや道路などの近くで発生すると、家屋の倒壊、道路の崩壊や土砂の押し出しで人命や財産、ライフラインなどに被害が発生し、生活に大きな影響が出ます。豪雨があるとこのような土砂災害の発生が増えるということを示すと、図.2のようになります。青の折れ線(右目盛り)、が時間雨量50mm以上の年間回数、赤棒グラフ(左目盛り)が土砂災害の年間発生件数を表しています。青のピークに赤棒の突出が合っているように見えます。豪雨があると土砂災害が発生しやすい傾向がみられるの

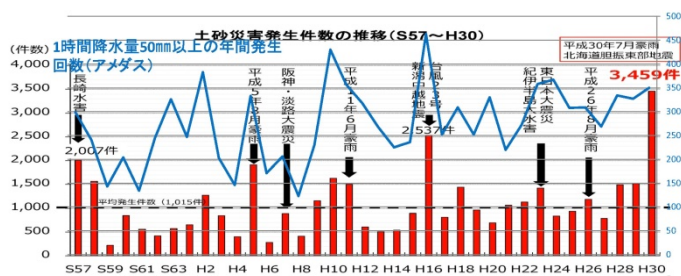


図.2 土砂災害の件数と50mm/時間の降雨の回数 (国土交通省の資料と気象庁のデータで作成)

ではないでしょうか？

土砂災害は発生する場所が比較的限られています。がけ崩れは、いわゆるがけ地、地形が急変するところで発生しやすく、土石流は、沢や谷の出口付近に上流から流出した土砂が堆積するので、扇状地や沖積堆などがあれば過去の土石流の発生跡だとわかります。地すべりは、繰り返し動くことが多く、その間に頭部滑落崖や末端の押し出し地形など特徴的な地形を形成します。自分の住んでいる地域の地形図などでこのような地形的な特徴を探してみるの是对策として大事なことです。また、最近では市町村で、ハザードマップを公開していますので、土砂災害の危険箇所をホームページで確認することもできます。この危険箇所には、現地看板がついていますので、注意してみてください。

知らない土地へ仕事や観光に行くときも、事前に調べておけば、豪雨のときの迂回ルートなどを想定することも可能です。